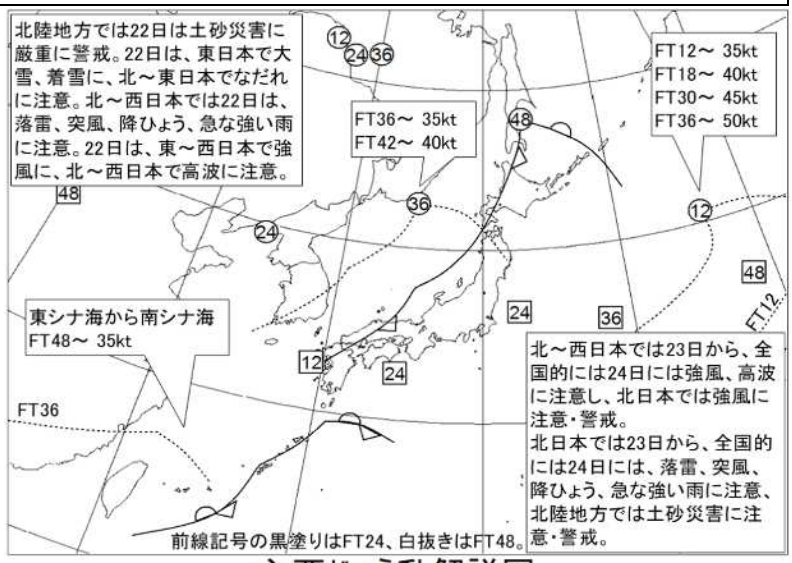
短期予報解説資料　２０２６年１１月２２日１５時４０分発表

気象庁



主要じょう乱解説図

１．実況上の着目点

① 500hPa 5340～5520mのリッジが東へ移動するのに対応して、黄海の高気圧が張り出してきて、東～西日本を覆ってきた。日本海ではまだ収束帯周辺の対流雲が発達しており、発雷を検知。

② 500hPa 5400～5460m付近のトラフに対応した低気圧が発達しながら日本の東を東北東進。

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の黄海の高気圧が、23日にかけて西日本へ移動し、東～西日本はこの高気圧に覆われて晴れる所が多くなる。

② 1項①の日本海の収束帯は、気団の境の気圧の谷となって日本海を東進。北陸地方周辺の降雨や山沿いの積雪は、23日にかけて次第におさまる。北陸地方周辺の降雨、山沿いの降雪が残っている間は、北陸地方では22日は土砂災害に厳重に警戒。東日本の山沿いでは大雪や着雪に注意。また、北～東日本の新たな積雪が多い山地では22日はなだれに注意。また、1項②のトラフの影響が残る22日は北～西日本では、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。また、22日は東・西日本で強風に、北～西日本で高波に注意。

③ 2項②の日本海を東進する気圧の谷が23日午後には北日本の日本海側に到達し、大気の状態が不安定となり対流雲が発達し、雷を伴った雨や雪が降る。23日には寒冷渦がアムール川中流でまとまり24日には沿海州に進む。これに伴い西谷が深まり、23日夜には沿海州の沿岸を低気圧が前線を伴って急発達しながら北東に進み、24日にはサハリン付近を北上、寒冷前線が北日本から西日本や東日本を通過する。一方、23日夜には華南～東シナ海で前線が顕在化し、500hPa5760m付近の強風軸に対応する前線上のキンクが24日朝には九州の南、夜には伊豆諸島の南に進み、南下してきた寒冷前線と一体化する。低気圧や前線に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で24日には全国的に大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨の降る所がある。北日本では23日から、全国的には24日には落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。これまでの大雨で地盤の緩んでいる北陸地方では24日は、土砂災害に注意・警戒。また、寒冷前線通過までは北～西日本で南よりの風が強く、北日本を中心に非常に強く吹く所もある。その後は張り出してくる大陸の高気圧との間で気圧の傾きが大きく、全国的に西よりまたは北よりの風が強くなる。北～西日本では23日から、全国的には24日には強風、高波に注意。このうち、北日本では24日は強風に注意・警戒。25日にかけて西高東低の気圧配置となり、日本付近には寒気が流れ込む。24日夜には北日本は850hPa-6℃以下となり、雨から雪に変わる。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　①雨量(18時からの24時間)：多い所（100mm以上）はない。
②波浪(明日まで)：北海道・東北・伊豆諸島・北陸3m。

５．全般気象解説情報発表の有無　発表の予定はない。

---

[1]量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。